様式 C-7-2

自己評価報告書

平成２１年　４月２３日現在

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2006～2009
課題番号：１８３２０１２５
研究課題名（和文）　噴火湾北岸縄文エコ・ミュージアム構想とサテライト形成

研究課題名（英文）　The planning of Jomon Ecomuseum in the northern coast of Funka bay and its satellite building

研究代表者　小杉　康（KOSUGI　YASUSHI）
北海道大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：１０２１１８９８

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：史学・考古学
キーワード：エコ・ミュージアム　文化資源　考古学

１．研究計画の概要

噴火湾北岸地域は後氷期における自然環境の変動に対する人類適応のダイナミックな過程を研究するのに最適の地域である。当該研究ではこのような研究課題の解明とともに、テリトリー内の遺跡・天然記念物・自然=文化景観を〈縄文エコ・ミュージアム〉のサテライトとして形成することを目的とする。当該研究では、北海道南部の噴火湾北岸を対象地域とし、また総花的な対象群から〈縄文〉をキーワードとして特に「自然遺産」・「歴史遺産」に焦点を絞り、それらに該当する遺跡・天然記念物・景観をサテライトとして調査・研究・整備する。「噴火湾北岸縄文エコ・ミュージアム」という名称を用いる理由である。（なお、この地域では縄文文化と続縄文文化とは密接に関連し、また時期的に弥生･古墳文化と併存する続縄文文化はこの地域を特徴付けるユニークな文化でもある。繁雑な表記を避けるために、当該研究では表題名称としては「縄文エコ・ミュージアム」を用いるが、内容的には続縄文文化の遺跡も取り扱うものである。）

２．研究の進捗状況

これまでにサテライト No.2 の整備として小幌洞窟遺跡（豊浦町）の発掘調査を３シーズンにわたって実施した。1961 年に実施された第１次調査の発掘区（A・B トレンチ）を確認し、多くの出土遺物を採取した。骨角器製品の出土量が多く、特に銛頭については続縄文文化から擦文文化へと展開する過程を跡付けられる貴重な資料である。さらに B トレンチでは、第１次調査では未発掘であった下層部を掘り下げることができ、洞窟の底面を確認することに成功した。その結果、本洞窟が縄文海進時に形成された海蝕洞窟であることがほぼ確定した。以上の結果は、サテライトとしての整備のために重要な資料・情報であり、学術性を担保する上で、大きな進展を認められる。

サテライト N0.1 の有珠６遺跡については、先行して実施した科研「噴火湾沿岸における後氷期の自然環境の変動と人類適応」で実施した同遺跡の発掘調査の成果に基づいて、遺跡の整備を進めている。現在では地元住民の方が参加して除草を定期的に実施できる体制を整備中である。サテライトのフィールドサイン（野外解説パネル）の設置は平成 20 年度に完了した。また、有珠６遺跡に関連する自然環境サテライトとして、有珠善光寺付近で駒ケ岳の噴火に伴う津波堆積物が確認でき、サテライトとしての整備を行っている。

噴火湾北岸縄文エコミュージアムのコアミュージアムを伊達市噴火湾文化研究所内に設置し、平成 21 年２月２日にオープンした。ルートマップと有珠６遺跡貝層剥離標本の展示、有珠６遺跡を散策する CG モデルを常設展示コーナーとして公開している。また、企画展示コーナーではオープン企画として「有珠 6 遺跡の調査成果」を開催中である。以後、3～4 か月おきに企画展を実施する予定で計画を進めている。

３．現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）当初の最大目標の１つであった噴火湾北岸縄文エコミュージアムのコアミュージアムの開設が実施できた。

サテライト No.1 の有珠６遺跡の整備状況

は 90%の達成度である。
　サテライト No.2 の小幌洞窟遺跡については、現在、サテライトとしての学術的な担保を確保するための発掘調査が継続中であり、計画の 75%の達成度である。

４．今後の研究の推進方策
　小幌洞窟遺跡の第 4 シーズンとなる発掘調査を実施して、その成果をまとめて、サテライト No. 2 としての整備を行う。
　本科研の研究成果を広く公表し、今後の研究活動につなげるためのシンポジウムを本年度中に実施する予定である。

５．　代表的な研究成果
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1 件）
① 小杉康、竹内亮介、森久大、星野二葉、今泉和也、「小幌洞窟遺跡の調査概報（第 2 次調査第 1 ・第 2 シーズン）－噴火湾北岸縄文エコ・ミュージアム構想とサテライト形成－」、北海道考古学、44 輯、45-52、2008 年、査読有
②小杉康、「時を展示する」、考古学ジャーナル、第 526 号、1-1、2007 年、査読無

〔その他〕
ホームページ
http://www.hucc.hokudai.ac.jp/~r16749/cmh/toppage01.html